

遊び創り研究センター

Research Center for ASOBI Creation (RCAC)



創造的な人間活動であり、文化的・社会的な営みでもある 「遊び」の理論構築と実践に一体的に取り組む

遊び創り研究センターは、自主的な研究グループとして2016年から50回以上にわたって実施された「遊び実装研究会」を前身として、2026年度に研究センターとしての活動を開始しました。

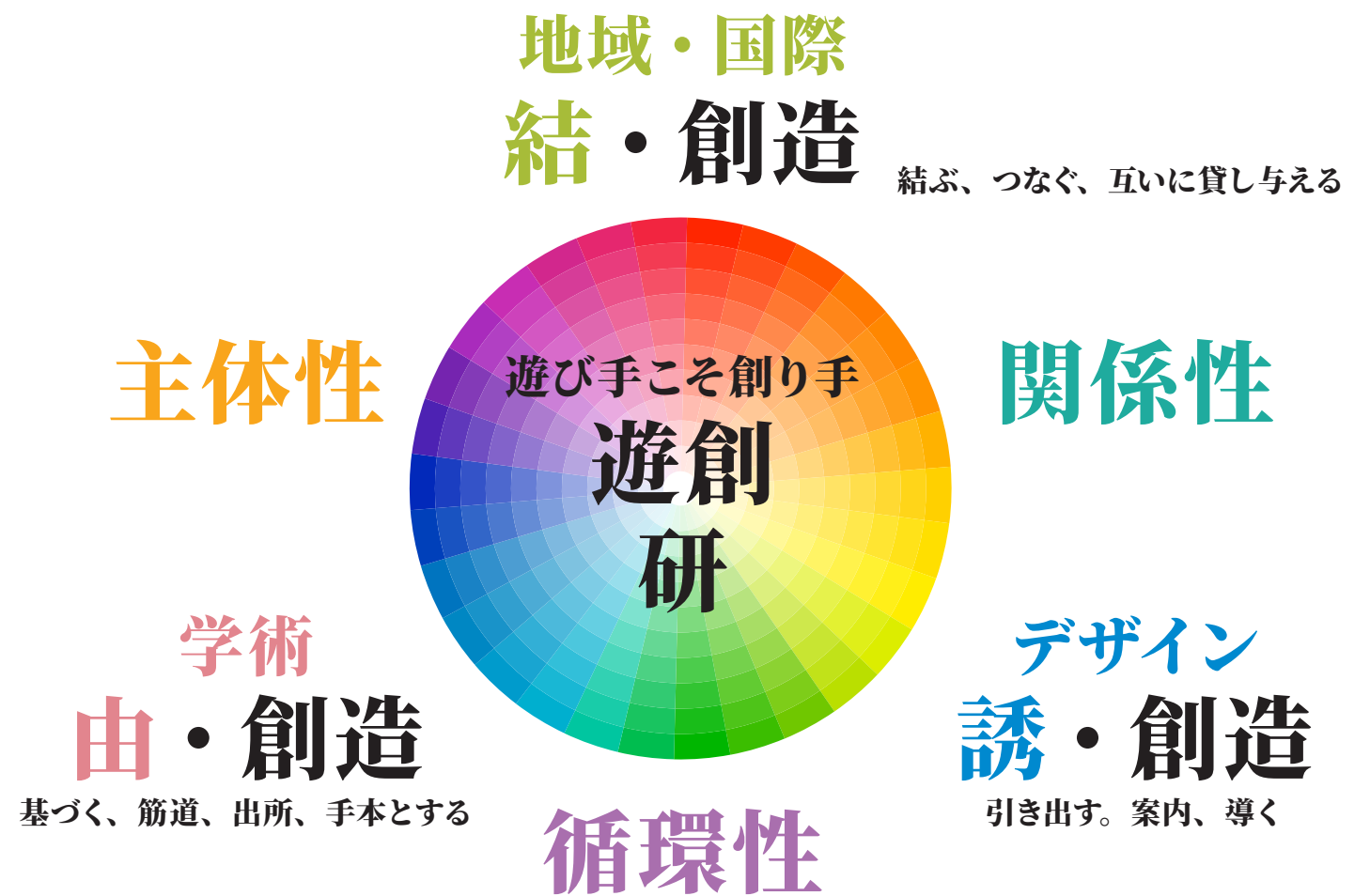
本研究センターは、遊びを「人間にとっての創造的な活動」と捉えなおしています。遊びは、遊び手(遊びを創出し、媒介し、他者に手渡すあるいは享受する主体)の創造性や主体性をどのように引き出し、人々のつながりや行動をどのように変容させ、文化的・社会的な営みをもたらしうるのか。この問いに答えるべく、本センターでは、遊びの理論構築を目指した研究を行うほか、企業・教育機関等、地域社会の現場とも連携した実装

活動も進めていきます。具体的には、遊びのルール・空間等のデザインと機能に関するこれまでの研究を踏まえつつも、遊び手の創造性・関係性・循環性という3つの視点に着目し、遊びの現場の記録・分析等を通じた実践的研究を進めていきます。

- ① 創造性：創造性・主体性を発揮する遊び手の研究
- ② 関係性：遊びを通じて他者との有機的なつながりを生み出す遊び手の研究
- ③ 循環性：既存の社会制度や価値観を揺さぶり、新たな文化的・社会的営みを生み出す遊び手の研究

さまざまな背景をもつ人々が参加できる遊びの場の実践により、多様性・包摂性・公平性を踏まえながら、遊び手の創造性・主体性をアシストする手法の開発にも取り組みます。本研究センターは、遊びを起点に学術・文化・産業を横断する新たな研

究領域を切り拓き、創造的な社会の実現に向けた国際的研究拠点となることを目指します。



主な研究テーマ(予定)

- 遊びの創造と継承に関する研究
- 国際連携・地域連携による遊びの共創に関する実践
- 作り手・遊び手・観客の創造性の連鎖メカニズムの研究
- 遊び手の創造性発揮に関する国際比較研究・文献研究
- 社会包摂性を生み出す遊びの研究
- デジタル空間での遊び手の創造性を担保する手法の研究
- 遊びの自由さと遊び手の倫理に関する研究
- 遊び手の創造的逸脱と新たな公共性創出に関する研究
- 遊びがもたらす社会変容の評価手法に関する研究
- 遊び手の表現と受容プロセスの実践的研究

センター長：飯田 和敏(映像学部 教授)
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス 遊び創り研究センター事務局
✉: rcac@st.ritsumeikan.ac.jp